

グローバル・デーリー・プラットフォーム

業績報告書 2022



GLOBAL DAIRY
PLATFORM

GDP重点領域

1)

酪農乳業の物語を伝える

2)

エビデンスを提供する

3)

環境を整備する

はじめに

グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)の使命は、酪農乳業が地球規模で持続可能な食料システムと関連性があり、それを構成する重要な要素であると認識させると同時に、牛乳乳製品の消費を維持し加速させる取り組みにおいて、酪農乳業セクターを一致団結させることです。

この要約では、局所的、地域的、国内的での成功への道を開く一助となる、2022年のGDPの主な業績についてご紹介します。2023年以降も、酪農乳業の未来は明るく、希望に満ちています。

物語を伝える

GDPは、酪農乳業が栄養、環境、経済、社会に与える影響をまとめ、前向きな物語として積極的に伝えていくことを支援します。



※本文中の青色の箇所をクリックすると、リンク先のWebページをご覧になれます。

「酪農乳業ネットゼロへの道筋」が潮流となる



世界的な気候変動対策「[酪農乳業ネットゼロへの道筋\(Pathways to Dairy Net Zero: P2DNZ\)](#)」の機運が高まり続けています。2021年の発足以来、世界の最大手乳業会社10社、各国政府、学術機関など、[150以上の主要な組織](#)が支援を表明しています。2022年の強調すべき成果は以下をご覧ください。

東アフリカのプロジェクトに新たな資金を獲得

[緑の気候基金\(GCF\)](#)は、[国際農業開発基金\(IFAD\)](#)、[国連食糧農業機関\(FAO\)](#)、[グローバル・メタン・ハブ](#)、GDPと共同で、エジプトのシャルムエルシェイクでの[COP27](#)において、P2DNZに対する[新たな資金提供を発表](#)しました。ケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダの酪農乳業システムをより低排出で気候変動に強い経路に移行させるために、最大4億ドルの資金を活用する目的で、プロジェクト準備に約350万ドルが充当されます。

コスタリカ、ウルグアイ、コロンビア、パキスタン、ベトナムでのP2DNZプログラムの計画も進行中です。



COP27で強調された酪農乳業のサステナビリティの歩み

GDPはCOP27に積極的に参加し、酪農乳業セクターが気候解決の一翼を担っていることを示すとともに、P2DNZの進捗を紹介し、12以上のイベントで話題に取り上げられました。これには、COP27の公式サイドイベント「[世界の酪農乳業セクターの気候変動に対する野心とパリ協定の達成に向けた進展\(The Global Dairy Sector's Climate Ambition and Progress Towards Achievement of the Paris Agreement\)](#)」が含まれています。GDP、[国際酪農連盟\(IDF\)](#)、ウルグアイ政府が主催したこのイベントでは、現在進行中の研究や、新興国・先進国双方の市場で気候変動対策がどのように加速しているかについて、進捗報告が行われました。

基調講演は以下の通りです。

- フェルナンド・マトス氏 (ウルグアイ共和国 畜産・農業・漁業大臣)
- タナワット・ティエンシン博士 (FAO動物生産・衛生部 部長)
- トーマス・ビルサック氏 (アメリカ合衆国農務長官)



その他、以下のようなP2DNZにスポットを当てたCOP27のイベントも開催されました。

- [異なる緩和領域からの教訓：酪農乳業セクターにおける排出量と緩和策を定量化するための研究とツールに関する事例紹介](#)
- [気候変動に対応した持続可能な酪農生産](#)
- [三角協力：気候変動に対応した革新的な解決策](#)
- [世界の酪農乳業セクターの気候変動に対する野心とパリ協定の達成に向けた進展](#)
- [酪農乳業ネットゼロへの道筋に向けた進展](#)
- [酪農乳業セクターにおける気候変動対策の進展](#)
- [農業と食料安全保障における変革の推進](#)
- [健康な地球と健康な人々 - 酪農乳業ネットゼロ、行動の呼びかけ](#)
- [農場での腸内メタン排出対策の導入を加速させる](#)
- [酪農乳業セクターは東アフリカの強靱な食料システムにどのように貢献できるか？](#)
- [アフリカにおける低排出で強靱な畜産・農業食料システムへの道筋](#)



また、GDPはCOP27において、各国政府、加えて金融機関、政府間組織、民間セクター、学術機関、NGOの代表者と35以上の二者間会合を開き、酪農乳業の先進地域と新興地域の両方でP2DNZの進捗について確認しました。

GDPはCOPの農業に関する交渉(コロンビア共同作業)にも参加し、業界全体を代表して交渉の場で声明を発表するなどしました。[コロンビア共同作業の最終文書](#)では、持続的に管理された畜産システムは、適応性と強靱性があることが確認されました。

酪農乳業は気候変動に対して、食料と栄養の安全保障、生計、持続可能性、栄養循環、炭素管理を守る役割を担っています。COP27の期間中、酪農乳業セクターとP2DNZの取り組みが注目されたことで、気候変動対策における酪農乳業セクターの評価が高まったと言えるでしょう。

P2DNZの研究が大きく前進

P2DNZの取り組みの一環として委託された研究により、世界における主要な酪農生産システムが6つ特定されるとともに、可能性のある緩和策と排出量削減の推定値が示されています。

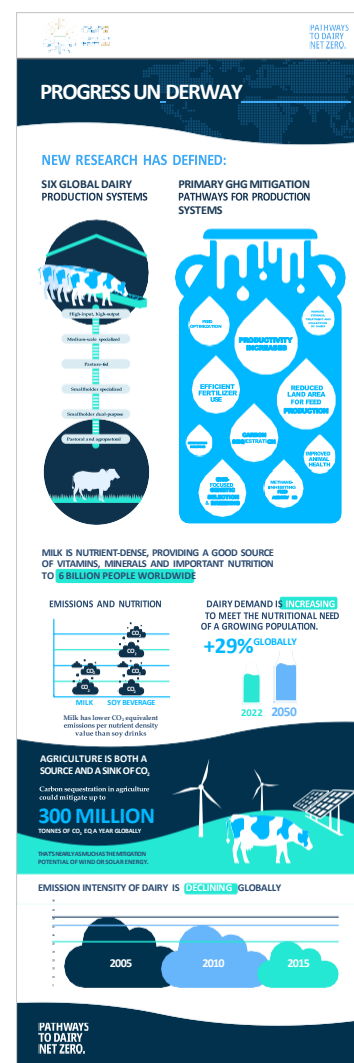
この研究は、「[農業温室効果ガスに関するグローバルリサーチアライアンス\(GRA\)](#)」が主導し、FAOと緊密に連携しています。彼らは共に、世界中の様々な酪農生産システムから排出されるGHGの構成を定義し、類型による排出プロファイルの違いを浮き彫りにしています。例えばメタンは、牧畜・農牧システムにおいて、主に腸内発酵によって GHG の大きな割合を占めています。しかし、高投入・高生産システムでは、腸内発酵だけでなく、糞尿管理、家畜飼料、エネルギー使用から、種々の組み合わせのGHGが排出されます。

緩和策の選択肢はそれぞれの酪農生産システムによって異なりますが、主な経路としては、家畜の健康増進、飼料消化率の向上、糞尿貯蔵と処理の強化、より効率的な肥料使用、メタン抑制飼料添加物の導入の可能性などがあります。

研究チームの次のステップは、それぞれの酪農生産システムの類型化において、種々の緩和策の影響をモデル化することです。

P2DNZの運営には、以下の組織が参画しています：

GDP、IDF、[持続可能な農業イニシアチブ・プラットフォーム\(SAI\)](#)、[国際家畜研究所\(ILRI\)](#)、[デーリー・サステナビリティ・フレームワーク\(DSF\)](#)、[国際酪農比較ネットワーク\(IFCN\)](#)。GRAはFAOの支援を受け、学術協力組織として活動しています。



ナリッシュ会議 2022

GDPは9月19～21日にアムステルダムでナリッシュ会議を開催しました。世界中から酪農乳業のリーダーが集まり、人類と地球の健康について、また世界の酪農乳業セクターが60億人に栄養のある食品を、10億人に生計手段を提供し続けながら、いかに気候変動に対する野心を高めているかについて協議しました。



議題では、世界各地ですで行われている酪農乳業セクターの取り組みを探り、そのコミットメントと進捗状況について報告しました。酪農乳業のGHG排出量の大部分は新興国からのものであるため、パリ協定1.5℃目標に沿った地球温暖化抑制プログラムに新興国がどのように参加できるか、新たな取り組みが話し合われました。

主な登壇者は次の通りです。ジョン・ケリー氏(米国気候変動大統領特使)、ベリー・マーティン氏(ラボバンク・グループ取締役)、チュ・ドンユイ氏(FAO事務局長)、サミュエル・テバサガヤム氏(ビル&メリнда・ゲイツ財団家畜農業開発副ディレクター)など。

[各講演者の発表の動画をご覧になるには、こちらをクリック](#)

2022年「世界牛乳の日」は、これまでで最も成功を収めた

世界の酪農乳業セクターの多大な支援により、2022年の「世界牛乳の日(World Milk Day)」はこれまでで最大規模となりました。ソーシャルメディアによるキャンペーンや対面式イベントが世界中の113か国で開催され、2年連続でソーシャルメディアによる投稿数は10億を突破しました。



今年のテーマは、気候変動対策を加速させ、酪農乳業セクターが地球に与える影響を軽減するために、すでに行われている活動に焦点を当てました。「[世界牛乳の日](#)」のプラットフォームを利用し、酪農乳業セクターは、「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)」の認知度を高めるため、酪農家がいかに持続可能な未来のためにテクノロジーを活用しているかを示すさまざまな動画を共有しました。

[最終報告書をご覧になるには、こちらをクリック](#)。今年の結果が要約され、酪農乳業に寄り添った素晴らしいコンテンツの特集が見れます。

GDP年次総会では、世界の主要な最新情報を提供

11月30日(水)に開催されたGDPの2022年次総会では、[COP27](#)から生まれる酪農乳業への影響に関する報告など、世界的な酪農乳業セクターの重要な進展が紹介されました。会議では、「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)」の最新情報の共有に加え、先進国の市場における持続可能性の進展と、新興国で進行中の活動に関する2つの啓発的なパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、[フォンテラ社](#)、[ランドオレイク社](#)、[フリースランド・カンピナ社](#)、[デーリーファーマーズ・オブ・アメリカ社](#)、FAO、GCF、IFADの専門家が登壇しました。

GDP Annual Meeting: November 30, 2022		GDP Annual Meeting: November 30, 2022	
			
Click on your preferred time to register: 06:00 – 09:30 US CT OR 18:00 – 21:30 US CT		Click on your preferred time to register: 06:00 – 09:30 US CT OR 18:00 – 21:30 US CT	
The meeting is being held twice to accommodate a variety of time zones. Choose the best time for you.		The meeting is being held twice to accommodate a variety of time zones. Choose the best time for you.	
1) Welcome and Introductions Hein Schumacher GDP Chair and CEO, Royal EitzlandCampina	5) Climate Action Underway in Developed Markets Panel Dr. Margrette Jonkman GDP Board Member Global Director, Research and Development, Royal EitzlandCampina Tim Levisy GDP Operational Committee Member Senior Vice President, Dairy Foods GDF & Asia Pacific Land O'Lakes Simon Tucker Director of Global Sustainability, Stakeholder Affairs and Trade Fonterra Co-operative Group	6) Tackling Climate Action in Emerging Markets Panel Moderator - Jay Waldvogel GDP Board Member SVP, Strategy & International Development Dairy Farmers of America Thanswat Tienlei Director, Animal Production and Health Division, FAO Pierre Guisard Senior Climate Finance Specialist, International Fund for Agricultural Development Gabriel Boc Senior Agriculture and Food Security Specialist, Green Climate Fund	8) Measuring Dairy's Socio-Economic Impact – A Global Vision Ernesto Reyes GDP Sector Lead, Dairy Development
2) GDP Strategic Overview Henne Sandergaard GDP Deputy Chair EVP and Chief Agriculture and Sustainability Officer, Arla Foods		9) GDP Nutrition Security Update Dr. Mack Kattar GDP Chief Science Officer	
3) 2022 GDP Work Program and COP27 Outcomes Donald Moore GDP Executive Director		10) Dairy Nourishes Africa: Actions and Impacts Celeste Le Roux, Senior Manager, Bain & Company	
4) Pathways to Dairy Net Zero: Results and Progress Kevin Burkum GDP Chief Communications Officer Professor Richard Dewhurst Head of Dairy Research Centre Scotland's Rural College		7) Measuring and Reporting Dairy Sustainability: Small Steps, Large Impact Brian Lindsay GDP Sector Lead, Sustainability	Q&A Wrap-Up/Closing Comments

また酪農乳業の社会経済に与える影響に関する報告では、酪農家の生計、酪農乳業のバリューチェーンに沿った雇用、消費者の利益、政府の歳入への貢献など、酪農乳業セクターの社会経済的影響についての定量化を行っています。最後に、栄養安全保障、デーリー・サステナビリティ・フレームワーク、アフリカ酪農乳業開発(Dairy Nourishes Africa:DNA)についてのタイムリーな最新情報が提供されました。

[各講演者のプレゼンテーションの動画はご覧になるには、こちらをクリック](#)

持続可能性のコミュニケーション向上に焦点を当てたGDP/IMPマーケティング会議を開催

2022年6月5日から7日にかけて、チューリッヒでGDP/IMPマーケティングミーティングが開催されました。世界中の酪農乳業のマーケティングおよびコミュニケーションの専門家が参加したこの会議では、酪農乳業が主要な持続可能性の問題に関して、どのようにコミュニケーションにおける効果を向上させなければならないかに焦点が当てられました。議題では、ネスレ社、タイソン社、マッキンゼー・アンド・カンパニー社、フォンテラ社、アーラ・フーズ社、サポート社、デリー・オーストラリア、デリー・UK、デリー・マネジメント・インク(DMI)などからの専門家が講演を行いました。

[各講演者の発表の動画をご覧になるには、こちらをクリック](#)



エビデンスの 提供

GDPは、持続可能な食料システムにおける酪農乳業の重要な役割を実証するデータと情報を開発します。



栄養：栄養価の高い乳製品の最適な摂取を奨励する

プロテオス計画 (Project Proteos)

- GDP は、食品のタンパク質の質を測定するための業界最高の方法を生み出すことを目的とした 6 年間の多施設共同研究プロジェクトである「プロテオス計画」を引き続き監督しました。[このテーマに関する論文](#) (これまでに発表された3本の論文のうち1本) が Journal of Nutrition 誌に掲載されました。この「プロテオス計画」は2023年に完了する予定です。
- [マッセー大学](#)と共同で、東京で開催された[栄養科学連合 \(IUNS\)](#)の国際栄養学会議 (ICN)において、GDPが主催するシンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、「[持続可能な食事におけるタンパク質の質の重要性 \(The Importance of Protein Quality in a Sustainable Diet\)](#)」をテーマに、5カ国から6人の講演者が登壇しました。
 - ポール・モーハン博士 (マッセー大学リデット研究所、ニュージーランド)
 - ダニエル・トーマ博士 (アグロ・パリテック - パリ生命・食糧・環境科学技術大学、フランス)
 - ハンス・スタイン博士 (イリノイ大学、米国)
 - アヌラ・クルパド博士 (セントジョンズ医科大学、インド)
 - キラン・ベインズ博士 (パンジャブ農業大学、インド)
 - フェイ・ハン博士 (国家食料物資備蓄局科学研究院、中国)

IUNS
INTERNATIONAL
UNION OF
NUTRITIONAL
SCIENCES



「プロテオス計画」のデータは、シンポジウムの中で大きく取り上げられました。ICNS、この種の会議としては最大規模の国際栄養学会議として広く知られており、5,000人以上の健康・栄養学の研究者、実務者、政策立案者などが参加しました。

タンパク質の質に対する高い関心は、2023年9月にオランダのユトレヒトで計画されている大規模な国際シンポジウム「人々の健康のためのタンパク質摂取 (Dietary Protein for Human Health)」にとって良い兆しとなりました。シンポジウムの主催者は、[FAO](#)、[国際原子力機関 \(IAEA\)](#)、GDP、およびいくつかの国際的な大学機関です。この会議では、世界のトップクラスのタンパク質科学者30人が、それぞれの見解やデータを発表する予定です。400人以上の栄養学研究者、臨床医、政策立案者が参加する予定です。

栄養ウェビナー

GDPは、デーリー・マネジメント・インク(DMI)および酪農研究コンソーシアム(Dairy Research Consortium:DRC)のメンバー(6か国の酪農乳業団体を代表する栄養学の専門家)と協力し、2022年に2つのウェビナーを開催・制作しました。

1つは「[世界の食生活指針](#)」について、もう1つは「[途上国の子どもたちの栄養摂取における乳製品の重要性](#)」についてです。



酪農研究コンソーシアム(DRC)とテクニカルディレクター

GDPは引き続き、DRCおよび欧州、北米、オセアニア、日本の各企業の研究開発テクニカルディレクターからなるグループの事務局を務めました。この2つのグループは四半期ごとに会合を持ち、酪農乳業セクターに有益な共同研究の機会と競争的な技術協力の可能性について議論しています。



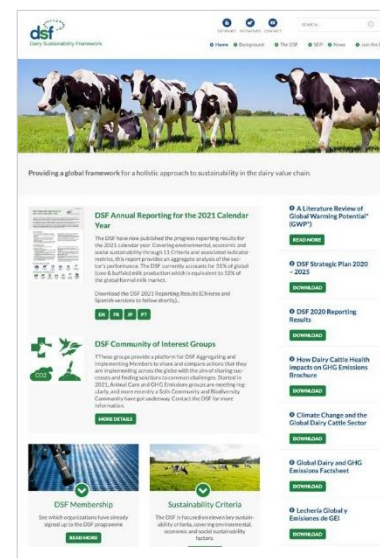
DRCは、持続可能な食事、乳タンパク質、そして乳マトリックスという3つの戦略的研究分野における疑問に対応する研究調査を含む作業計画を策定しています。

持続可能性：酪農乳業が責任のある、持続可能で、影響力のある産業であることを示す

2021年 DSF年次報告

GDPが会長を務める[デーリー・サステナビリティ・フレームワーク\(DSF\)](#)は、世界の総生乳生産量の約31%、世界の公式な生乳取引全体の52%における、持続可能性に関する進捗を整理し、つなぎ合わせ、追跡するものです。DSFは、世界の酪農乳業セクターについて、11の持続可能性における評価項目と関連する指標(評価基準)に基づく2021年の結果を発表しました。この結果は現在、英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、中国語、日本語で提供されています。

[2021年の結果をご覧になるには、ここをクリック](#)



温室効果ガス削減のために家畜の健康が重要であることを示す新しい報告書

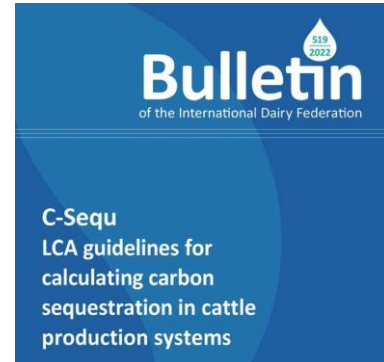
家畜の健康を改善することは、排出量の削減に役立ちますが、各国が気候変動に関する国家のコミットメントにこれを盛り込むには、より詳細な進捗状況の測定が不可欠です。この新しい報告書「[国家の気候変動に関するコミットメントにおける家畜の健康の役割](#)」によると、家畜に影響を与える疾病や家畜の寿命はGHG 排出量に大きな影響を与えています。現在のところ、ほとんどの国のGHG国別インベントリや[国別排出削減目標\(NDC\)](#)には、家畜の健康に関する項目が含まれておらず、測定、報告、検証のためのシステムを確立するためには、さらなる大きな投資が必要です。その結果、家畜の健康の重要性は、気候変動と戦うための各国のコミットメントの多くには明確に反映されていません。この報告書は、FAO、GDP、GRAによって作成されました。



C-Sequ(炭素隔離)ガイドラインを策定

酪農乳業と肉牛の団体が協力し、ライフサイクル分析(LCA)の手法を用いて農地における地上と地下の炭素吸収量を定量化するための新しいガイドラインが開発されました。GDPは、パブリックコンサルテーションや9カ国の50の酪農場が参加する実証実験を含む開発プロセスにおいて管理業務を担当しました。

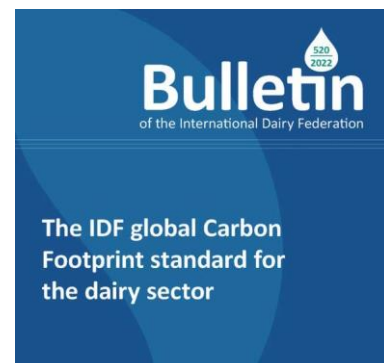
[このガイドラインはIDFのウェブサイトから入手可能です](#)



「酪農乳業セクターのためのIDFカーボンフットプリント世界標準」(第2次改訂版)が完成

2011年に初版が発行されたこの業界資料は、範囲を拡大し、LCAとGHGに関する新しい科学と応用の知識を取り入れるために更新されました。GDPは、この改訂版作成のためのプロジェクト管理を担当し、世界中の50人以上の専門家が参画しました。

[この文書はIDFのウェブサイトから入手可能です](#)

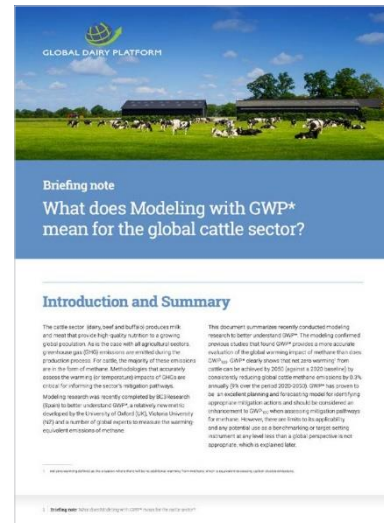


GWP*のモデル化研究が完了

メタンの地球温暖化への影響については、これまでに用いられている地球温暖化係数であるGWP₁₀₀よりも、新たに開発された係数であるGWP*(GWPスター)の方がより正確に評価できることが、新たな研究で確認されました。このモデル化研究は、[BC3リサーチ社](#)がGDPや様々な協力組織から資金提供を受けて実施し、GWP*を用いると、世界の牛のメタン排出量を毎年0.3%(2020~2050年の期間では9%)一貫して削減することにより、2050年までに畜牛による温暖化ネットゼロ(メタンによる追加温暖化がなくなり、二酸化炭素排出を止めることに相当する)が達成できることを示しています。

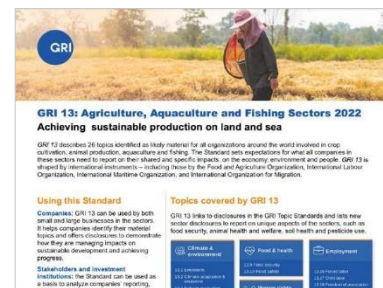
この研究結果から、GWP*は適切な緩和行動を特定するための優れた計画を予測するモデルであり、メタンの緩和経路を評価する際には、GWP₁₀₀を強化したものと考えるべきであることが分かりました。

しかしGWP*を用いる際には、地球規模の視点でなければ、その適用には限界があることも示されています。[この説明文書を見るにはこちらをクリックしてください。](#)



GRIの新基準にGDPが貢献

GDPは、最近発表された[農業、養殖業、漁業のためのGRIスタンダード\(Global Reporting Initiative Standard\)](#)を開発する作業部会(ワーキンググループ)に参加し、これらのセクターにおける持続可能性情報の比較可能性を高めました。この評価基準の多くは、DSFの指標と一致しています。



アフリカとアジアでのDSF実証実験

IFADとGDPからの助成金の一環として、DSFはアフリカとアジアの4カ国の持続可能性に関する実証実験を支援しています。ケニアとインドでは地域的な試験を実施し、ルワンダとベトナムではマテリアリティ評価に力を入れています。これらの実証実験は、DSFが新興の酪農経済圏の目的に適合していることを確認するのに役立ちます。

新興の酪農市場において、酪農乳業のバリューチェーンがDSFモデルの導入によりどのような利益を得られるのかを示すため、ケーススタディが作成されています。



社会経済発展のための酪農：酪農乳業が人々の生活を変革することを実証する

デーリー・インパクト・メソドロジー

IFAD と GDP から助成金の一環として、先進地域と途上地域の両方における酪農乳業が社会経済に与える影響を測定するため、デーリー・インパクト・メソドロジー (DIM) という手法が開発されています。DIMの開発に取り組む組織には、GDP、IFAD、FAO、ILRI、IFCN、[持続可能な畜産のためのグローバルアジェンダ \(Global Agenda for Sustainable Livestock: GASL\)](#) などがあります。社会経済発展に対する畜産の貢献は、政府、政府間組織、資金団体によって過小評価されることが多いため、この手法を開発することは重要です。このプロセスの一環として、世界最大の農業部門データベースが開発され、世界約187カ国において消費者利益、農家の生計、雇用、政府歳入の観点から酪農乳業が与える影響を評価することができるようになりました。



最初の結果は以下の通り、酪農乳業セクターの成長と発展に伴い、酪農乳業の社会貢献が増加することを示しています。

- より多くの消費者が、手頃な価格で牛乳乳製品に入手できるようになる
- 酪農家の収入が増え、農家の生計が改善され、農村の貧困が減少する
- バリューチェーンにおける労働者の賃金が向上する
- 政府の税収が増加する

GDPは、生産システムや地域間の不均質性を把握するため、5カ国(インド、ベトナム、ケニア、ルワンダ、米国)で酪農乳業の社会経済への影響評価の実証実験を行っています。米国での実証実験は、DMIから資金提供を受けています。世界全体および各国の報告書は、2023年に公開される予定です。

酪農乳業とSDGsに関する新たな報告書

国連の持続可能な開発目標(SDGs)に関して、酪農乳業の影響を測定した2つの新しい報告書が2023年に発行されます。1つは酪農乳業のジェンダーの平等とエンパワーメント(SDG5)に関する効果を評価するもので、もう1つは雇用における酪農乳業の役割(SDG8)を追跡するものです。



ジェンダーの平等とエンパワーメントに関する予備調査によると、この分野での正式な研究はほとんど行われていませんが、酪農乳業の発展が女性のエンパワーメント向上につながる事が示唆されています。本報告書では、調査研究から得られたポジティブな関連性を強調し、その影響と恩恵を十分に評価するためにさらなる研究が行われることを求めています。

アフリカにおける酪農乳業開発

アフリカ酪農乳業開発([Dairy Nourishes Africa:DNA](#))は、[ランド・オレイク・ベンチャー37\(Land O'Lakes Venture37\)](#)社と[バイン・アンド・カンパニー\(Bain & Company\)](#)社の支援を受け、GDPが設立した官民パートナーシップです。DNAは市場主導のシステムアプローチを採用しており、酪農家と連携する乳加工業者がバリューチェーン全体の変革を加速させる要となり、栄養の確保、生計、経済成長の問題に取り組むとともに、GHG 排出量の削減を実現します。

2020年から2021年にかけてタンザニアで一連の実証実験を成功させた後、2022年にDNAは、[ビル&メリンダ・ゲイツ財団](#)が資金提供し、[タンザニア農業開発銀行](#)と共同で実施する3年間の「タンザニア酪農における包括的加工作業-生産者パートナーシップ(TI3P)」プログラムの一環として、事業規模を拡大しはじめました。TI3Pの下、DNAはタンザニア最大の酪農家と連携する乳加工業者と協力して、零細農家の持続的集約化を支援する包括的な生乳調達戦略、高品質で手頃な製品を市場に提供する優れた商業活動、効果的な運営、触媒となる補助金や融資を通じて、利益ある成長への道を確認することを目指しています。DNAは[ケニアでも実証実験](#)を完了し、協同組合所有の乳加工業者と協力して、政府のセクター開発の優先事項と連携しながら事業規模の拡大を目指しています。

DNAは[世界経済フォーラムのフード・アクション・アライアンス](#)からセクター変革の最高レベルとして認められ、ウガンダ、エチオピア、ルワンダでも規模拡大を目指し、地域全体の酪農乳業セクター変革のためのプログラムに積極的に貢献しています。DNAは、上記の東アフリカにおける「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の取り組みに全面的に参加しています。

Strategic Framework

DNA operationalizes its innovation through a market-led, systems approach that includes interventions across the full dairy value chain, from grass to glass

Aligned with Government Priorities and Policy

Grow Consumer Demand

- Define/revitalize change strategies and communication and nutrition campaigns
- Increase innovative distributor models
- Support school milk programs

Drive Enterprises to Full Potential

- Accelerate and incubate dairy enterprises growth by optimizing operations for scale
- Implement and scale sustainable business models for inclusive farmer-led operations that produce low carbon products

Increase Farmer Production

- Equip farmers to enhance on-farm productivity and economic
- Implement and scale business models that increase access to appropriate inputs, services and technologies
- Strengthen aggregation models that link commercially-oriented farmers to markets

Ambition

Transform African dairy industries by creating vibrant ecosystems of farmer-led and environmentally sustainable enterprises that improve nutrition, enhance livelihoods, and stimulate economic growth.


Strengthen Operating Environment

- Increase food safety and quality
- Increase access to credit
- Improve industry data and accessibility
- Enhance industry advocacy

DNA Principles: Data-driven, Environmentally sustainable, Agile and adaptive, Gender and youth inclusive, Collaborative

Piloting in Kenya

In 2022, DNA launched in Kenya with Mukuruweini Wakulima Dairy to accelerate growth



- 100% farmer owned
- 8,000+ cooperative farmers
- 100k/day capacity
- Supports dairy enterprises via own animal feed factory, veterinary personnel, credit stores and a SACCO

ACHIEVE COMMERCIAL EXCELLENCE

- Area sales strategies for Nairobi
- Distributor partnership model
- Marketing strategy for general trade
- Commercial KPI dashboards

INCREASE MILK SUPPLY

- Farmer engagement strategy
- 30 demo sites reaching 600+ farmers
- Silage creation training and access to choppers and Achanta forage seeds

環境を整備する

GDPは、幅広いパートナーシップ(連携)とコラボレーション(協働)を通じて、酪農乳業セクターの取り組みを紹介し、増幅させます。



GDPがFAOと歴史的な協定を締結

FAOとGDPは、2021年末に両組織間の最初のパートナーシップに関する覚書 (Memorandum of Understanding:MOU)に調印しました。



この歴史的な5年間のMOUで特定された協働分野には、以下のものがあります。

- 食料安全保障と栄養に対する酪農の貢献度向上に向けた取り組み
- 生計と経済成長における酪農の役割の最適化
- 酪農システムにおける家畜の健康・福祉の向上の支援・促進
- 酪農システムにおける気候変動対策と天然資源の効率的利用に対する野心の向上

これら4つの分野のそれぞれの活動を概説する作業計画案が作成されました。これは世界の酪農乳業セクターにとって大きな前進であり、国連との関係強化や、食料の未来における酪農乳業の重要な役割を物語っています。

酪農乳業大使ネットワーク

GDP酪農乳業大使(デーリー・アンバサダー)は、国連の会合やイベントで酪農セクターを代表する上級リーダーです。環境、農業、健康・栄養、持続可能な開発目標(SDGs)に関する重要な議論の場で、酪農乳業の貢献について意見を述べ、酪農乳業を支持する役割を果たします。

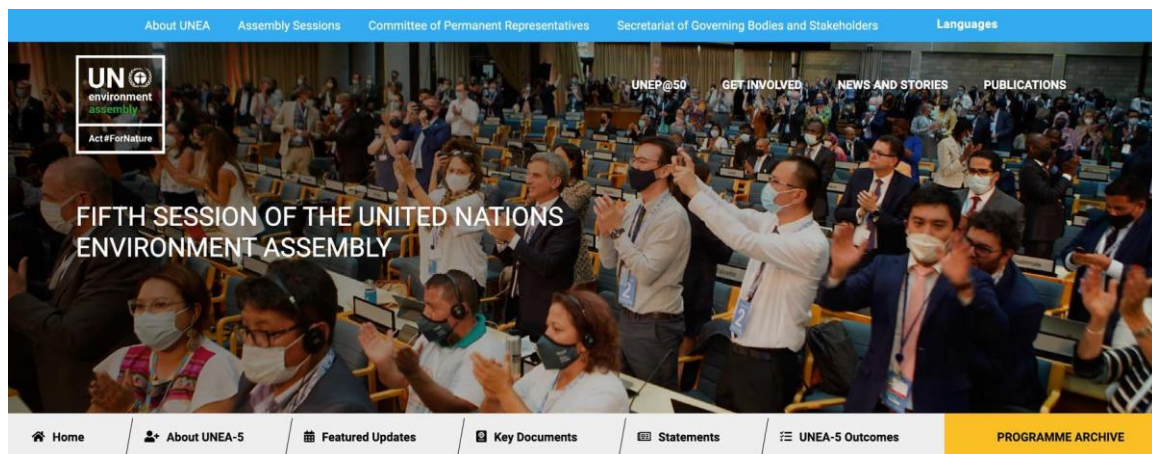
アンバサダーは、トレーニングを受け、[FAO農業委員会](#)、[持続可能な開発に関する国連ハイレベル政治フォーラム](#)、[国連環境会議\(UNEA\)](#)、[国連環境計画\(UNEP\)](#)など、年間を通じてさまざまな重要な会議に参加しました。



2022年、GDPは、ナイジェリア、ケニア、メキシコ、米国の若手酪農家を含む新しいユース・アンバサダー・プログラムも試験的に導入しました。

国連環境総会(UNEA)

2022年2月28日～3月2日、[第5回国連環境総会再開セッション\(UNEA 5.2\)](#)がハイブリッド形式で開催されました。GDPは、加盟国、国連、国連環境計画(UNEP)、民間セクターの代表者100名が参加したハイレベル対話「自然を基盤とした解決策のための事業(Business for Nature-based Solutions)」に参加しました。GDPはまた、[UNEA 5.2閣僚宣言](#)にコメントを提出しました。酪農乳業大使のマーガレット・ムネネ氏は、2022年末にビジネス・産業グループの共同議長としての2年間の任期を終えました。



GDPはGASL会合で重要な役割を果たした

GDPは、8月に開催されたGASLの北米地域協議会を主導しました。[このセッションでは](#)、持続可能な農業における家畜の重要な役割について、専門家による様々な角度からの発表が行われました。10月にダブリンで開催された[GASLの第12回マルチステークホルダー・パートナーシップ会議](#)では、持続可能な食事の一部として家畜がいかんして質の高い栄養を提供しているかを議論するパネルにGDPが参加しました。



ストックホルム+50

6月2日～3日、国連は「国連人間環境会議」の50周年を記念して、ストックホルムで国際会議を開催しました。この会議は「[ストックホルム+50](#)」と名付けられ、「全ての繁栄にとって健全な地球 – 我々の責任と機会 (a healthy planet for the prosperity of all – our responsibility, our opportunity)」をテーマに開催されました。

GDPとアーラ・フーズ社は、ストックホルム+50の提携イベントとして、「[変革的な農業・食料システムがSDGs達成にどのように貢献できるか \(How Transformative Agri-Food Systems can help\)](#)」を開催しました。

またこの会議では、スウェーデン大使との非公式な協議も行われました。



持続可能な開発に関する国連ハイレベル政治フォーラム

7月5日から15日にかけて、ニューヨークで[国連ハイレベル政治フォーラム](#)の2022年セッションが開催されました。GDPはサイドイベントとして「[酪農乳業を通じたSDGs実施の推進](#)」を開催し、ボツワナ国連常駐代表で[国連経済社会理事会 \(ECOSOC\)](#) 会長(当時)のコリン・キラピル (Collen Kelapile) 大使が出席され、酪農乳業セクターの重要性についてメッセージが伝えられました。また、GDPは[HLPF成果文書](#)への掲載のため、「酪農乳業ネットゼロへの道筋」の文言を提出し、[ECOSOCハイレベル・セグメント](#)に「アフリカ酪農乳業開発 (DNA)」の情報を提供しました。



気候変動ウィーク・ニューヨーク

9月19日～25日、ニューヨークで気候変動ウィーク (Climate Week NYC) が開催されました。GDPは、サイドイベントとして「[酪農乳業ネットゼロへの道筋に向けた進展 \(Progress Towards Pathways to Dairy Net Zero\)](#)」を開催しました。このイベントでは、ローマにある国連機関のニュージーランド常駐代表であるアンソニー・シン普森大使が開会の辞を述べ、ニュージーランドにとっての酪農乳業の重要性について述べました。



FAO農業委員会(COAG)畜産小部会

[FAO農業委員会\(Committee on Agriculture:COAG\)畜産小部会](#)が3月16日から18日までローマで開催されました。この3日間の会議で、FAOはニュージーランド、米国、アルゼンチン政府と同様に、様々な形でP2DNZを認めました。

GDP、IDF、米国政府は、サイドイベントとして「[酪農乳業ネットゼロへの道筋:変革的な農業・食料システムがSDGs達成にいかに関与できるか](#)」を開催し、シンディ・マケインFAO米国大使、マリア・ヘレナ・セメドFAO事務次長、そしてケニア政府から特別な発言やサポートがありました。



食料安全保障委員会(CFS)

国連の[世界食料安全保障委員会\(Committee on World Food Security:CFS\)の第50回総会](#)が10月10日～13日に開催されました。GDPはこの会合に参加し、世界の酪農乳業セクターを代表して主張するため、加盟国やその他の団体と会談を行いました。



二者間の会合

GDPとその酪農乳業大使は、以下の国連加盟国政府や国連職員に対し、年間を通じて二者間会合を行い、世界の酪農乳業セクターがもたらす恩恵について職員に啓発・情報提供しました。

- オーストラリア
- アルゼンチン
- ボツワナ
- カナダ
- キューバ
- デンマーク
- エジプト
- 欧州連合
- ドイツ
- ガーナ
- インド
- アイルランド
- ケニア
- マリ
- ニュージーランド
- パナマ
- タイ
- イギリス
- 米国
- ウルグアイ

グローバル・デーリー・プラットフォーム
10255 W. Higgins Road, Suite 820
ローズモント(イリノイ州)
60018-5616 アメリカ合衆国
電話番号+1 847 627 3388

Info@GlobalDairyPlatform.com
www.GlobalDairyPlatform.com

グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)は、世界の酪農乳業セクターを代表する非営利の業界団体です。GDPの会員は、95以上の主要な企業、団体、学術機関、その他の提携者で構成されており、150カ国以上で事業を展開し、合計で世界の全生乳の33%を生産しています。

GDPは、2022年の酪農乳業セクターの発展に役割を果たしていただいた、全ての会員の皆様に感謝いたします。

